

○ 日本側所蔵記録

資料番号	J. II-17	資料名	正徳度朝鮮通信使上々官第三船図・供船図
------	----------	-----	---------------------



紙本著色（縦×横）79.0×①148.0、②111.5cm

1711年に来日した第8次の朝鮮通信使の上々官が乗る、きらびやかに飾られた川御座船と、その付属船5隻を描いたもの。現在は2面に分けて額装されているが、もとは連続した紙に描かれていた。群馬県沼田市の土岐家に伝わったという。土岐氏は、1711年当時、大阪城代を務めており、通信使の接遇に関わったことの記録として描かせた可能性が高い。

資料番号	J. II-18	資料名	朝鮮通信使御楼船図屏風
------	----------	-----	-------------



紙本著色（縦×横）137.2×横349.8cm

使行年は不詳であるが、通信使の一行を乗せて淀川を行くきらびやかな高殿付きの御楼船を中央に置き、楽人を乗せた船や供船がその前後に配置されている。現在は6曲屏風の体裁をとるが、もとは卷子装であったと考えられ、各船を輪郭に沿って切り取り、屏風に貼り交ぜたもの。徳川御三家の一つ、紀州徳川家に伝来したと伝える。

※徳川御三家とは、初代将軍徳川家康の血脈を継ぐ、3つの家系のこと。歴代将軍を補佐したり、将軍が欠けるときはこの家系より補うことがある。